

2026 年度 大学院春季入試（政治学専攻）

博士課程（前期）

国際関係論

---

【合否判定の方法】

《外国語科目》《専門科目》《面接》

提出書類および外国語試験、専門科目、面接の成績を総合的に評価し、合否を判定する。

【合否判定の基準】

提出書類および各試験の結果を総合的に評価し、研究計画の妥当性および博士課程(前期)における研究遂行能力を有しているかを判断する。

1 試験日 2026 年 2 月 13 日

2 科目 国際関係論（100 点満点）

3 出題意図

大学院において研究を遂行するために必要な、近現代の国際関係史に関する基本的な知識、特に多国間外交の要となってきた国際連合に関する基本的な知識を確認することを目的とした。また設問に対する回答として論理的に議論を展開できるかを確認することも目的とした。

4 評価のポイント

回答にあたっては、以下の点などに触れているとよい。

国連創設 80 年間での変化

- ・ 創設当初 51 カ国だった加盟国が 193 カ国に増加し、欧米中心の組織からグローバル・サウスの国々が多数を占める、普遍的な組織へと変化したこと。
- ・ 多数の専門機関、計画・基金などが設立され巨大な「国連システム」が形成されたが、現在、組織の重複や財政難などから現在スリム化が図られていること。
- ・ 集団安全保障を目的として創設されたものの機能不全に陥り、創設当初想定されていなかった国連平和維持活動が行われるようになったこと。人権、経済開発や環境など、非安全保障分野の地球規模的課題に重点的に取り組むようになったこと。

現在の国連の意義と課題

- ・ 安全保障理事会の機能不全、「力による現状変更」への抑止力不足といった課題の一方で、多国間対話のプラットフォームとなっていること。

以上